

(書式 2)

## 学会参加報告書

提出日 2019年 6月 21日

学籍番号	19pma30	所属	トレーニング科学系
氏名	さいとう みか 齋藤 未花		
学会等名 (正式名称)	American College of Sports Medicine		
開催日程	2019年 5月 28日 ~ 2019年 6月 1日		
開催場所 (国・都市名)	Orland, Florida, USA		
発表演題名	The Association between MCT1 T1470A and ACE I/D Polymorphisms and Athletic Status in Climbing Athletes.		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p>&lt;学会の全体の印象&gt; 国際的な学会であった為、規模が大きく、研究においても対象の被験者の人種も様々であった。 日本よりもラフな雰囲気を感じた。ポスターの発表時間も長く、落ち着いたディスカッションができる雰囲気であった。 発表形態も、ポスターとシンポジウムだけでなく、セマティックポスター等バラエティがあり面白かった。</p> <p>&lt;自分の研究と関連した発表とその内容&gt; ■クライミング前後に握力を計測した研究 対象者 10 名の中級クライマーに、トップロープのルートを 30 分間登り以上登らせ、クライミング前後において握力と前腕周囲を計測した。クライミング後、握力は 22.1%減少、前腕周囲は 4.5%増加し、握力が減少している人ほど前腕周囲が増加していた。</p> <p>■フィンガーハングテスト中の酸素動力学についての研究 エリートクライマー 8 名を対象に、4 つの強度で自発的疲労困憊までフィンガーハングテスト中の Smo2 の計測を行った。</p> <p>クライミングはエキセントリックな筋力必要とされる為、自身の研究でも、エキセントリックの筋力の低下率等も見えていく予定である。以上 2 つの研究が関連があり興味を持った。</p> <p>&lt;自身の発表への質問・コメント&gt; 自身の研究について、説明して欲しいというリクエストが多かった。質問に関しては、被験者の競技レベルの詳しい内訳や、遺伝子多型に関する質問が多かった。 今回の研究では MCT1 遺伝子多型と競技レベルとの関連性も見ため、MCT1 遺伝子多型に関する捉え方等のコメントを頂いた。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後 2 週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。